

持続可能な観光に関する国際動向

観光を、持続可能な開発目標 (SDGs) や国連持続可能な消費と生産 10 年計画枠組み (10YFP) という国際的なテーマをふまえて捉えなおすと、社会課題とのつながりやその解決の可能性が見えてくる——。

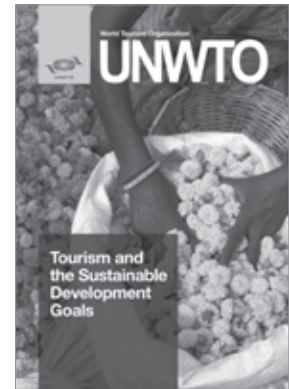
[協力：国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)]

Topic 1

観光による SDGs への貢献

国連世界観光機関 (UNWTO) は、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成と観光の関係を一覧に取りまとめ公開している。

観光が直接言及されている目標 8「すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する (ターゲット 8.9: 2030 年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する)」、目標 12「持続可能な消費と生産のパターンを確保する」(ターゲット 12.b: 雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業に対して持続可能な開発がもたらす影響を測定する手法を開発・導入する)、目標 14「海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する (ターゲット 14.7: 2030 年までに、漁業、水産養殖及び観光の持続可能な管理などを通じ、小島嶼開発途上国及び後発開発途上国の海洋資源の持続的な利用による経済的便益を増大させる)」の他、全目標と観光の関係性を示す内容となっている。



詳細は UNWTO 公式サイトより閲覧可能。
<http://www.e-unwto.org/>

Topic 2

国連持続可能な消費と生産 10 年計画枠組み (10YFP) 持続可能な観光プログラム

UNWTO がフランス、モロッコ、韓国政府と共同で 2014 年に設立した 10YFP 持続可能な観光プログラムは、観光セクターにおける協働プラットフォームとして、既存のイニシアチブやパートナーシップの一元化を行い、観光セクターの持続可能な消費と生産のパターンへの転換を加速させる活動の実施を目的としている。

現在、各国政府、市民団体、学術組織、企業など 127 組織が参加しており、2017 年 7 月にニューヨーク国連本部で開催された持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム (HLPF) に提出された報告書^{※1}では、同プログラムの参画組織によるさまざまな活動の進捗が報告された。2016 年中には、旅行者やツアー会社向けに責任ある行動や、持続可能な観光を推進するためのガイドや、ホテル従業員向けのエネルギー効率化を推進するためのアイデアを取りまとめたガイドの他、持続可能な観光とモニタリングするためのダッシュボード等の技術的ツールが 32 件作成されたことが報告された。

また、持続可能な消費と生産クリアリングハウスのウェブサイト^{※2}では、同プログラムの全ての活動内容の情報が公開される予定となっている。

※1 HLPF に提出された報告書は PDF で閲覧可能 (英語)
<https://undocs.org/E/2017/63>

※2 持続可能な消費と生産クリアリングハウスの WEB サイト (英語)
<http://www.scpclearinghouse.org/>



ツアーオペレーター用のガイドでは、持続可能な観光商品の販売を拡大するためのステップについて紹介。

10YFP における日本の役割

10YFP は、2014 年に開催された国連持続可能な開発会議 (リオ + 20) において、世界全体として低炭素型ライフスタイル・社会システムの確立を目指すことを目的に採択された枠組みで、日本の環境省はスウェーデン環境省と世界自然保護基金 (WWF) とともに「持続可能なライフスタイル及び教育 (SLE) プログラム」を主導している。